

(財)京都ボーイスカウト振興会

平成22年度事業計画(案)

1. ボーイスカウト京都連盟が行う青少年活動の事業を助成

- ・広河原野営場の中期整備計画の立案及びそれに沿った本年度分の改修工事

2. 日本ジャンボリー派遣団への資金的援助

3. 青少年のスカウト活動を振興させるための普及宣伝活動

- ・HPのさらなる充実により、隊員の新規募集への支援を強化

4. 指導者の資質向上に繋がるプログラムの企画・助成

5. 国際プログラムへの参加促進に関する事業に助成

以上

收支予算書

1 頁

111 財団法人 京都ボイスカウト振興会
01 一般会計自 平成22年 4月 1日
至 平成23年 3月31日

勘定科目	予算額(A)	前期予算額(B)	増減 (A-B)	比率 A/B*100
【基本財産運用収入】	300,000	320,000	-20,000	93.8
基本財産運用収入 (4401)	300,000	320,000	-20,000	93.8
【会費収入】	2,500,000	2,600,000	-100,000	96.2
賛助会員会費収入 (4433)	2,500,000	2,600,000	-100,000	96.2
【普通財産取崩収入】	3,000,000	0	3,000,000	-
普通財産取崩収入 (4441)	3,000,000	0	3,000,000	-
【雑収入】	5,000	5,000	0	100.0
受取利息 (4481)	5,000	5,000	0	100.0
【事業活動収入】	5,805,000	2,925,000	2,880,000	198.5
【事業費支出】	5,345,000	3,420,000	1,925,000	156.3
普及宣伝費支出 (4521)	300,000	500,000	-200,000	60.0
HP運営改革費支出 (4522)	700,000	600,000	100,000	116.7
通信運搬費支出 (4524)	20,000	0	20,000	-
諸謝金支出 (4539)	10,000	10,000	0	100.0
租税公課支出 (4540)	5,000	0	5,000	-
助成金支出 (4542)	2,300,000	2,300,000	0	100.0
整備委託費支出 (4545)	2,010,000	10,000	2,000,000	.
【管理費支出】	370,000	370,500	-500	99.9
給料手当支出 (4552)	20,000	20,000	0	100.0
会議費 (4563)	150,000	150,000	0	100.0
旅費交通費 (4564)	30,000	30,000	0	100.0
通信運搬費 (4565)	30,000	30,000	0	100.0
什器備品費 (4573)	5,000	5,000	0	100.0
消耗品費 (4574)	20,000	20,000	0	100.0
印刷製本費 (4576)	30,000	30,000	0	100.0
光熱水料費 (4578)	5,000	5,000	0	100.0
火災保険料 (4580)	5,000	5,000	0	100.0
租税公課 (4582)	5,000	5,500	-500	90.9
雑費支出 (4587)	50,000	50,000	0	100.0
雜支出 (4588)	20,000	20,000	0	100.0
【事業活動支出】	5,715,000	3,790,500	1,924,500	150.8
【事業活動収支差額】	90,000	-865,500	955,500	-
予備費 (4931)	90,000	134,500	-44,500	66.9
【当期収支差額】	0	-1,000,000	1,000,000	-
【次期繰越収支差額】	0	-1,000,000	1,000,000	-

平成22年度 京都連盟事業計画（案）

はじめに

私たちの活動、運動はスカウトが主役です。その主役が微減ながら、年々減少しており、まだ歯止めがかかっていません。減少原因が活動単位の基本である団組織の怠けによる事では決してないでしょう。支援組織の地区、連盟の組織力、指導力等の力不足なのでしょうか。いや、各関係者はそれぞれのステージで、それぞれのポジションで、昼夜を問わず頑張っています。

にもかかわらず、なぜ組織拡大が儘ならないのでしょうか。しかし、全ての組織において、減少しているわけではありません。基本原理・原則、理念を変えることなく、創意と英知と努力で拡大し、あるいは上向き傾向になっているところもあります。拡大しているところは、それなりの理由があるはずです。

現代社会、経済社会のひずみが大きく影響していることも、現実であり無視は出来ません。私たちは、出来ないといって指をくわえてばかりはいられません。少年たちは日々、成長し進歩し、変化しています。その彼らを間髪いれずに引き込むには、どうすればよいのでしょうか。今、私たち大人に出来ることは何なのでしょうか。

現在、広く社会に対して、スカウト運動の使命、目標が正確に伝わっているのだろうかという、スカウトのイメージ調査資料によると、その認知度の低さに、関係者は愕然とします。

私たちは、この運動が、青少年健全育成には最高のすばらしい教育であると確信し、自信を持って推進しています。

今一度、この運動の原点を確認して、活動の楽しさ、すばらしさをより多くの青少年に提供できるように、一緒に努力をしてまいりましょう。

基本方針

「スカウト仲間だけでなく地域の仲間と共にスカウト活動の楽しさを広げていこう」

重点目標

- 1 団の支援体制を推進し、団機能の充実を図る。
- 2 スカウト運動の基本をしっかりと実践する。
- 3 外に向けてスカウト運動の使命、目標をアピールする。
- 4 第15回日本ジャンボリーをみんなで成功させ、地域や世界の仲間との輪を広げる。
400名参加
- 5 京都連盟創立100周年へ向けての準備を推進する。

重点施策

1 組織の充実について

- (1) 団の組織活性化・拡充への支援を図る。
- (2) 学校教育を含めた地域社会と融合し友好と一層の連携を深め、多くの子どもたちにスカウトプログラムの提供をコミッショナーと協働し推進を図る。
- (3) 加盟員数に見合った組織構成の適正化を検証・研究に取り組み、未組織地域への団新設をコミッショナーと協働し調査・支援・協力を図る。

2 広報活動の充実について

(1) 加盟員間のコミュニケーション

団あてのメール通信により、情報交換を緊密にする。

(2) 対外広報

ウェブサイトの充実、B.Press の発行により、地域社会へ生き生きした活動の様子を伝える。

(3) パートナーシップの構築

スカウト出身者を中心に、スカウト運動のファンを再発掘する。

3 指導者養成について

(1) 新指導者訓練体系について

新訓練体系への移行の準備期間という認識に立って定型・定型外訓練開設方法についてトレーニングチームと連携して検証を図る。

(2) 定型外訓練への参加推進

隊リーダーの指導力向上や各種技能の習得を図る。その為、通常の地区開催以外に連盟主催での開催を模索する。

(3) ボーイスカウト講習会の活用

ボーイスカウト講習会が指導者導入訓練としての基本は崩さず、対外的な広報活動の一部分として活用出来る様、組織・広報委員会と連携する。

4 進歩・プログラムについて

(1) 進級面接会・記章の授与式・各種セレモニー・の重要性の認識

一連団内行事が、おざなりにならぬようきめ細かく実施されるようアピールする。

(2) 技能章講習会の充実・技能章取得の促進

技能章講習会受講者の増員を図る。新規講習会研究を図る。

信仰奨励講座より信仰奨励章交付 → 宗教章への導き

(3) 国際関連の進歩支援 チャレンジ章・ターゲットバッジ・技能章への積極的挑戦

世界の仲間と交流できるよう自分の得意分野を身につける
言葉が通じなくても自分の持つスキルで交流する

5 イベント活動について

(1) 第15回日本ジャンボリー派遣業務の遂行

23WSJを見据えた大会として15NJは開催され、運営方法が大幅に見

直される中、派遣に必要な事前準備を推進し、15N J派遣を成功裏に終えるよう貢献すると共に、京都連盟創立100周年の年に開催される23WS Jに向けた地盤作りを推進する。

(2) 野営場の維持改善の推進

静原、広河原両野営場の諸設備の老朽化部分の改修を進めるため、関係箇所との調整業務及び整備活動に努め、安全でより充実したスカウト活動が展開出来る環境を提供する。

6 国際教育の推進に関して

(1) 第23回世界スカウトジャンボリーに向けての取組みと推進

- ・国際プロジェクト、海外派遣プログラムへの参加促進を図り、世界スカウトジャンボリーに向けての国際理解を推進する
- ・海外スカウトの受入協力体制の整備と拡充（ホームステイ受入家庭の拡充と受入スカウトとの交流プログラムの支援）

(2) 「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトの理解と参加促進

- ・「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトに隊・団単位で参加し、世界のスカウトの一員としての意識を高める。
- ・加盟員の定着・拡大を視野に、「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトをうまく活用する（国際性を生かしたプログラムを活用）

7 財政に関して

(1) 財政基盤強化拡大への努力

- ① 日本連盟維持会員・京都ボーイスカウト振興会維持会員・ボーイスカウトカード加入促進に努力
- ② 経費削減などの更なる努力
- ③ 需品の開発販売に努力

④ 安定的な財源確保に向けての方策の検討

8 環境教育の推進について

(1) 京都発の環境プログラムを開発する

- ・団の支援体制の推進に向けて環境プログラムの提供を検討する

(2) 環境セミナーの開催を行う

- ・環境がスカウト運動の基本として認識されるようアピールする

9 安全教育の推進について

(1) 活動中の安全対策の強化を図る

- ・指導者を対象とした救急法・安全法の講習会を充実する。
- ・発達障がいに関する学習を通じ障がい児スカウティングの認識を深める。
- ・「そなえよつねに保険」の加入促進を図る。

(2) 地域に根ざした安全活動

- ・災害時における社会参加・奉仕の奨励
- ・各種のキャンペーン活動へのスカウトの積極的参加を促進する。
- ・医療チームの充実を図り地域との連携を強化する。

(3) 救急法講習会開設チームの一層の充実を図る。

10 青少年元気サポート事業の推進について

(1) 特別の支援を必要とする青少年活動について一層の理解を深める。

(2) 「アウトドアチャレンジ」活動を推進する。

<委員会の事業・活動計画>

1 組織拡張に関する主な活動目標（組織委員会）

(1) 元気みなぎる団に、また、スカウト仲間意識を強めるために

① 団のスカウト育成理念を明確に表明する『団キャッチコピー』を団ハウス等団関係者の目に触れるところに掲出をする。

② 保護者を傍観者にせず、積極的に団委員などに取り込む。

③ 団活性化のため、他団との交流を深めていく。

(2) 団委員長への支援を強化するために、コミッショナーチームと連携して下記の活動を通じて組織拡充の啓発に努めるとともに、支援のあり方を研究する。

① 京都団委員長セミナーを実施する

② 各地区団委員長フォーラムを実施する

(3) 他運営委員会の協力・連携の下、地域社会(学校や地域の関係諸団体、TV メディア)との連携をより強めていくために、

① スカウト活動の理解をより深めるため、他団体の行う行事への支援・協力・奉仕の実施を検討する。

② 団担当コミッショナーの充実の推進をコミッショナーとともに図る。

③ 府・市教員の社会体験研修、学生の社会奉仕体験を積極的に受託し、広くスカウト運動への理解者を広め、普及を図る。

④ 地域社会の青少年へ「スカウトプログラム」参加の機会の場を提供する

ことをねらいとした、小・中学校の校長に機関誌やスカウティング誌を持参し、交流し、スカウト運動の理解者を広め、普及に努める。

⑤ 未組織地域の検証・研究をコミッショナーと共に取り組み、新団結成を推進する。

2 広報活動に関する主な活動目標（広報委員会）

(1) ウェブチーム、振興会と協働してウェブサイトに最新の情報を掲載する。

(2) B.Press の編集チームを組織する。

- (3) プレスリリースを定期的に発信し、マスコミとの関係を築く。
- (4) スカウト出身者の名簿を作成する。
- (5) 音楽隊の活躍の場を増やす。

3 指導者養成に関する主な活動目標（指導者養成委員会）

- (1) 定型訓練への参加を奨励する。
- (2) 定型外訓練の地区での企画実施を支援する。
- (3) トレーニングチームの活性化推進を図る。
- (4) 新指導者訓練体系での定型外訓練について近畿ブロック内での広域的な実施を模索する。

4 進歩・プログラムに関する主な活動目標（進歩委員会）

- (1) 「What is Shinpō」の普及を図り、進歩制度の理解を図る。隨時内容の改訂研究。
- (2) 菊スカウト・富士スカウトの活躍の機会を各地区で設定しスカウト進級意欲の向上を図る。
- (3) 各地区と連携し技能章講習会各地区で設定し技能章取得スカウト増と募集要項の改正等の研究。
- (4) 信仰奨励講座の充実。受講者への信仰奨励章交付への導き さらに宗教章取得の推奨。
- (5) ホームページの活用を含め、進歩に関する情報伝達の徹底に努める。

5 イベントに関する主な活動目標（イベント委員会）

- (1) スカウト活動推進の一拠点としての野営場整備を関係箇所の協力を得ながら推進する。又、各地の野営場の情報収集と発信を実施し、情報の共有化を図る。
- (2) イベント委員会の活動への理解を深めるため活動情報を発信し、より多くの指導者層の参画を促す。

(3) 女子駅伝などの対外奉仕をボーイスカウト運動の格好の P R の場と捉え、積極的に参加奉仕することで広く一般に認知され、加盟委員拡大に貢献する。

15 NJ 派遣に向けた諸準備に対する支援を行い、合せて各種大会の実施・運営を推進し、23 WSJ に向けた地盤作りに努める。

6 国際プログラムに関する主な活動目標（国際委員会）

(1) 姉妹提携をしているイタリア・フィレンツェ連盟スカウトの 15 NJ への参加を援助すると共にホームステイを通じての国際交流を図る。同じく姉妹提携をしている韓国・京畿南部連盟への、京都連盟からスカウト派遣を行い、相互交歓交流を深める。

(2) スカウト活動の国際化を目指す「ウエルカム・ザ・ワールド」プロジェクトに参画し、日本連盟から振り分けられた「コモロ連合」「ホンジュラス共和国」「ルーマニア」の国々と、隊・団単位で交流を図り、国際交流プロジェクトの意識の高揚を図る。

(3) スカウト及びリーダーの国際交流・海外派遣プログラムへの参加促進を図り、広く国際感覚を養い、国際貢献に寄与できるスカウト及びリーダーを育成する。

(4) 「国際プログラム研究会」を開催し、海外派遣報告や国際交流報告を行い、国際プロジェクト・海外派遣・国際交流事業などへの参加意欲を高める。

7 財政に関する主な活動目標（財政委員会）

8 環境に関する主な活動目標（環境委員会）

(1) 各団（隊）の活動に環境行動の考えが浸透するように努力する。

(2) 環境教育プログラムの普及を図るために「プログラムヒント集」の作成に努める。

(3) 府モデルフォレスト協会の「緑のカーテン」運動に参画し、スカウトの環境意識の向上を図る。

(4) 各団が緑化活動等を通じ、環境教育のあり方や方向性を研究し、環境活動の向上に努める。

9 安全に関する主な活動目標（安全委員会）

10 青少年元気サポートに関する主な活動目標（特別委員会）

(1) 知的障がいや発達障がいのある青少年たちとの自然体験を通して諸活動の交流事業を図るために下記の活動を推進する。

- ① 指導者のための講習会の開催を行う。
- ② ゆめっと京都（加盟会員）、スペシャルオリンピックス等他団体へ参加の呼びかけを行う。
- ③ 各団における取り組みの為の協力と推進及び指導を行う。

(2) 一般青少年を対象とする体験活動に取り組み展開する。